第7講　助動詞（接続）

PART1　助動詞の接続

★【接続】（＝何形にくっつくか。＝上が何形か。）

（例）次のカッコ内の語を文法的に正しく活用させ、記しなさい。

（答ふ）べし。

（例）次の傍線部の活用形は何形？

読むべし。

（例）次の現代語訳は？

くるべきものなり。

接続	助動詞
未然形	る・らる・す・さす・しむ・む・ず・むず・じ・まし・まほし
連用形	けり・き・つ・たり（完了）・ぬ・けむ・たし
終止形 ※ラ変型＝連体形	めり・らむ・らし・まじ・なり（伝聞推定）・べし
サ変**未**然形 **四**段**已**然形	り
体言・連体形	なり（断定）
体言	たり（断定）
体言・連体形 助詞「の・が」	ごとし

第７講　PART1　確認問題

① 助動詞「たり」について説明した文の空欄Ａ・Ｂに入る語として、最も適当なものの組み合わせを次の中から一つ選べ。

助動詞「たり」は、連用形に接続する場合は［Ａ］の意味を表し、体言に接続する場合は［Ｂ］の意味を表す。

ア　推量・断定　イ　推量・願望　ウ　完了・使役　エ　完了・断定　オ　願望・使役
カ　願望・完了

② 「さらに来じ」の傍線部の読みとして、正しいものを次の中から選べ。

ア　こ　イ　き　ウ　く　エ　くる　オ　くれ

③ 「たち代はりて参り来べきを、…」の傍線部の、活用の行・活用の種類・活用形　は何か。最も適当なものの組み合わせを次の中からそれぞれ選べ。

ア　マ行・四段活用・終止形　イ　カ行・変格活用・終止形　ウ　マ行・変格活用・連体形
エ　カ行・四段活用・連体形

④「いづくに作れるにか（あり）らむ。」の（　）内の語を文法的に正しく活用させたものを、次の中から選べ。

ア　あら　　イ　あり　　ウ　ある　　エ　あれ

⑤「垣を吹きはらひて隣と一つになせり。」の傍線部の文法的な説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行四段活用動詞の未然形
イ　サ行四段活用動詞の已然形
ウ　サ行変格活用動詞の未然形
エ　サ行変格活用動詞の已然形

第７講　PART１　確認問題　解答

〔解説〕

①「たり」は連用形に接続する場合は完了、体言に接続する場合は断定の意味を表す。

②「じ」の上は未然形。「来」はカ変動詞。カ変は「こ・き・く・くる・くれ・こ（よ）」と活用するので、正解はア。

③「～来」はカ変動詞。傍線部下の「べき」＝「べし」で、「べし」の上は終止形である。

④「あり」はラ変動詞。傍線部下の「らむ」の上は基本的には終止形だが、ラ変型に活用する語の場合は連体形。「あり」の連体形は「ある」なので、正解はウ。

⑤「り」の上は、サ変動詞の未然形か四段活用動詞の已然形。「なす」はサ行四段活用動詞なので、正解はイ。

〔解答〕

①エ　②ア　③イ　④ウ　⑤イ